

# 乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO.51

2018.8

## 遺伝性乳がんに対する 分子標的治療薬の登場 リムパーザ (一般名：オラパリブ)

### ■ 遺伝性乳がん卵巣がん症候群の患者さんについて

リムパーザ(一般名：オラパリブ)は、遺伝性乳がんの治療薬として登場した、世界初のPARP阻害薬とよばれる分子標的治療薬の1つです。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)の患者さんでは、BRCA1もしくはBRCA2遺伝子に生まれつき病的な変異(異常)があり、乳がんだけでなく卵巣がんなどにもかかりやすくなることが知られています(乳がん高度検診治療センターNEW-すNo.47参照)。

正常な細胞では、傷ついたDNAを修復する重要な仕組みとして、BRCA蛋白とPARP蛋白と呼ばれる2つの蛋白が働くことで、DNAの傷は速やかに修復され、細胞は生き残ります。

HBOCの患者さんでは、BRCA遺伝子に異常があるために、BRCA蛋白が正常に機能しません。

BRCA蛋白が働かないがん細胞では、PARP蛋白だけでDNAの傷を修復して生き残り増殖します。リムパーザによりPARP蛋白の働きが阻害されると、DNAの傷を修復できなくなり、がん細胞は細胞死に至り、がん細胞の増殖を抑えることができます。



市立貝塚病院  
TEL : 072-422-5865

### ■ 保険適用になりますか？

リムパーザは日本においては、2018年1月に再発卵巣がんの患者さんに対して保険適応となり、2018年7月より遺伝学的検査でBRCA遺伝子変異陽性と診断された転移・再発乳がんて一定の条件をみたす患者さんにも使用できるようになりました。BRCA遺伝子に変異(異常)があるかどうかは、血液検査で調べることができ、BRCA遺伝子変異を認めた場合、治療選択肢の1つにリムパーザが加わります。ただ、BRCA遺伝子変異の検査結果は、ご本人はもとより血縁者にも多大な影響をもたらしますので、十分なインフォームドコンセントを受けたのち、納得が得られれば遺伝学的検査をお受けください。

リムパーザは経口薬で、頻度の高い副作用は、吐き気、貧血、疲労などです。吐き気については、ほとんどの場合、食事の工夫や吐き気止めのお薬で対処可能です。

リムパーザの適応があるかどうかなど、わからないことがありましたら、遠慮なく担当医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

乳腺外科 西前綾香

